

令和7年度第3回美濃加茂市地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：令和8年1月9日（金）9時59分～11時59分

場所：美濃加茂市役所 第一議会委員会室

（1）開会

（2）あいさつ

○会長（美濃加茂市長）：新年早々、本日は委員の皆様全員にご出席いただき、第3回美濃加茂市地域公共交通活性化協議会を開催できましたことを心から感謝申し上げます。

人口減少や高齢化、科学技術の進展などにより、公共交通の在り方が大きく変化する中、行政サービスの在り方や民間事業者の力をどのように地域に取り入れていくかについて、協議会の皆様と共有しながら検討していく必要があると考えております。

今年度はチョイソコの実証運行を実施しており、本日はその速報結果の報告があります。市民の皆様から実証運行を継続してほしいとの声が寄せられております。本格運行までの間にサービスが停止する状況を踏まえ、市としても当該期間を埋める対応の可能性について協議を進めております。今後も、皆様からの意見を踏まえつつ、丁寧に検討を進めていきたいと考えております。

みのかも定住自立圏公共交通基本構想について報告があります。公共交通の今後の展開に向けた重要な一歩となり得る内容であるため、皆様からの意見を伺い進めてまいります。また、長良川鉄道や JR 東海など、地域が鉄道でつながってきた経緯を踏まえ、民間事業者の力を一層引き出しつつ、行政が担うべき役割と民間に委ねることが可能な事項について整理・協議を進め、市民の移動手段を大切にしていきたいと考えております。

委員の皆様には忌憚のない意見を賜りたく、貴重なお時間を頂戴いたしますが、ご協力とご理解を重ねてお願い申し上げまして、本日のご挨拶に代えさせていただきます。

現在、本協議会とは別に、福祉の観点からも市民の移動手段を重視し、市民アンケートを実施しています。アンケート結果は本会議には間に合わないものの、2月中旬頃に取りまとまる見込みのため、今後はその結果も踏まえ検討を進めていきたいと考えております。

(3) 議題

議第1号 令和6・7年度地域公共交通確保維持改善事業評価について

○事務局：「議第1号 令和6・7年度地域公共交通確保維持改善事業評価」を説明

○松本委員（名城大学）：どの路線の利用者数が減少したのですか。

○事務局：3公園連絡線の目標値は達成していますが、利用者は僅かに減少しました。

○松本委員（名城大学）：令和7年度に利用者数が伸び悩む自治体が見られる中で、美濃加茂市では利用者数が順調に増加しているため、大変素晴らしいことだと思います。また、運行費は増加しているものの、利用者の増加がそれを上回っているため、一人当たりの負担額が減少しており、良好な循環に入っていると思います。

○松本委員（名城大学）：今後の取組として、基本的にはこれまでどおりの取組を継続すること記載されている一方で、やさしい日本語を用いた乗り方教室の実施や、高校生による課題研究など、ユニークな取組が入っています。

○事務局：まちづくり課内に多文化共生係があることを踏まえ、職員を対象にやさしい日本語に関する研修を実施しています。外国人利用者がやさしい日本語により公共交通に乗ってもらえるような仕組みを構築していきたいと思います。

→異議なし（議第1号協議が調う）

議第2号 美濃加茂市地域公共交通計画【素案】について

○事務局：「議第2号 美濃加茂市地域公共交通計画【素案】」を説明

○下平委員（岐阜運輸支局）：P17の課題4に示されている「あい愛バスの乗り継ぎに対する不満解消」について、ICT技術を活用したシステムの導入として、P22の事業4-1に記載されている取組を想定されているということでしょうか。どのような考え方で取組を進めようとしているのかについてご説明いただければと思います。

○事務局：P27の事業4-1における利便性向上策や、事業4-2のデジタルサイネージによる情報提供を通じて、バス停等で待機している利用者に対し、運行状況などを分かりやすく提供することを想定しています。これら取組により、乗り継ぎに関する情報不足を補い、不満の解消につなげていきたいと考えています。

○下平委員（岐阜運輸支局）：P22の事業2-3も乗り継ぎに関する取組だと思いますが、待合環境の整備のようなハード面の取組であり、事業4-1は情報提供の工夫のようなソフト面の取組として整理されているということでしょうか。

○事務局：その通りです。

- 松本委員（名城大学）：それぞれの事業は同じような表現ではありますが、意味合いが違うように考えられるため、区別がつくように用語の整理をお願いします。
- 藤井委員（美濃加茂市健寿連合会）：P18の新たな計画は、人口減少を踏まえた今後の方向性が重要であり、特に目標3の観光事業との連携を一層強化する必要があると思います。名鉄広見線や長良川鉄道の廃止問題、過去の名鉄と高山線との関係等を踏まえ、今後の名鉄との協議の可能性を含め、観光施策についてどのように考えているか教えてください。
- 事務局：観光の強化については、市内の観光資源が十分に知られていないと感じており、公共交通を利用して現地まで行けることと併せて、情報提供を行っていく必要があると考えています。市内観光に加えて、近隣地域の観光も取り入れた1日の観光コースを提示することで、利用者に分かりやすく伝え、行きたくなる仕組みを作っていきたいと考えています。
- また、名鉄との交渉については、現時点では具体的な協議は進んでいませんが、名鉄路線が関係する八百津町とも情報交換を行いながら、今後協議を進めていきたいと考えています。
- 会長（美濃加茂市長）：公共交通の話題からは少し外れますが、名鉄との関係について私から一言申し上げます。名鉄とはさまざまな接点があり、現在は木曾川中流域活性化協議会においても、名鉄がオブザーバーとして参加しています。本日はいただいたご意見を踏まえ、今後の方向性について一度意見交換を行いたいと考えています。市長としてもしっかり受け止め、適切なタイミングで皆様に情報提供できればと思います。なお、乗り入れの経緯については、国鉄分離の影響も含め、改めて調べておきたいと考えています。
- 朝日委員（住民代表）：P25の事業2-3の取組について、具体例にある無料Wi-Fiはバス停での提供だと思います。これに加えて、バス車内のWi-Fiとして整備すれば、学生などの長時間乗車する利用者にとって、有効な取組になるのではないかと思います。
- 事務局：学生の利用が増えている状況を踏まえ、車内Wi-Fiに加えて、車内で充電できる環境の整備の可能性も考えられます。今後は運行事業者と協議を行い、費用面も含めて検討していきたいと思っています。

- 黒田委員（岐阜県タクシー協会）：P20にタクシーや福祉有償運送が示されていますが、21ページ以降でそれらに対する具体的な方向性や計画が見えにくいと感じました。福祉分野の整理結果や課題が今後明らかになれば、それを公共交通の役割として位置づけ、計画に反映していく必要があると思います。今の段階では情報がまとまっていないと思うので、今後健康者・障がい者を問わず分かりやすい計画として整理していくことができると考えています。
- 松本委員（名城大学）：明確になった時点で反映するという点で事務局には対応をお願いします。EV車両について計画内で記載の箇所はありますか。
- 事務局：EVバスについて、計画では触れていないので、計画内に盛り込んでいきたいと思っています。

- 大矢委員（身体障害者福祉協会 美濃加茂支部）：公共交通を利用できない患者さんが多く、病院が独自に送迎バスを運行していますが、これは病院側にとって大きな負担になっています。送迎バスが継続できなくなった場合、車椅子の方が現在のあい愛バス等の公共交通機関を利用できるのかという点を懸念しています。

計画にはカタカナ表記が多く、高齢者の方々にとって理解が難しいのではないかと感じました。内容は重要であっても、日本語を併記するなど、誰にでも分かりやすい表現にしていきたいと思っています。

- 事務局：資料中のカタカナ表記が多く、一般の方には分かりにくい部分が多いと思います。用語を日本語に置き換える、補足説明を加えるなど、読み取りやすい表現に改める必要があると考えています。

車椅子利用者への対応については、あい愛バスの一部では対応できているものの、現状では十分とは言えない状況です。現在、病院への送迎バスは病院で対応いただいておりますが、行政がすべてを担うことになると、体制面への影響も懸念されます。この点については、福祉部局や病院と意見交換の機会があれば、今後どのように対応していくべきかを協議していきたいと考えております。

- 佐合委員（美濃加茂商工会議所）：協議会のメンバーを見ましたが、JR東海さんがいないと思いました。美濃太田駅から高山方面に向かう際にICカードが使えるようになれば便利だと感じました。

- 事務局：JRが参加していない点については、なぜこれまで参加がなかったのかも含めて、今後の対応を検討してまいります。

ICカードについては、JRに対して要望を提出する機会があり、継続的に要望は行っておりますが、現時点では実現に至っておりません。

○松本委員（名城大学）：P22には事業の実施主体として市と事業者が記載されており、事業者として交通事業者の皆様もご協力をいただくこととなります。本計画は市と交通事業者が一体となって策定した計画となり、交通事業者の皆さまには責任を持って各事業を実施していただくこととなります。この点で計画を改めてご確認いただくと良いかと思えます。

→ 議題第2号については、素案の方向性を承認された。今回の協議会で出された意見のほか、来週末まで各委員から意見を募り、それらを反映させた上で確定させる。

（４）報告

報告事項1 みのかも定住自立圏公共交通基本構想【素案】について

○事務局：「報告事項1 みのかも定住自立圏公共交通基本構想【素案】について」を説明

○下平委員（岐阜運輸支局）：市をまたがる幹線バス路線については、国と県が連携し、運行赤字に対して補助が行われてきました。あい愛バスが通学や通院で美濃加茂市外へ移動するニーズが多いことも分かってきました。路線を維持していくために、県との連携が不可欠であり、当該路線を地域にとって必要な幹線路線として県に位置づけてもらうことが重要だと考えています。本構想の策定にあたり県に動きがあるか伺いたいです。

○蛭田委員（岐阜県公共交通課）：一度市内に持ち帰り、現行の基準と新たな基準を含めて検討していきたいと考えております。

○松本委員（名城大学）：ICカードの導入についての記述を計画に追記できないでしょうか。

○会長（美濃加茂市長）：事前に計画で鉄道の印象が薄いのではないかという指摘をいたしました。計画内に追記は必要かと思えます。

○松本委員（名城大学）：JRに利便性向上の要望は出しているのでしょうか。

○事務局：ICカードの導入、本数、便数についての要望を出しています。

報告事項2 「チョイソコみのかも」実証運行の結果(速報)について

○事務局：「報告事項2 『チョイソコみのかも』実証運行の結果(速報)」を説明

○下平委員（岐阜運輸支局）：P13でチョイソコの本格運行に移行するにあたり、

あい愛バスを見直す予定があるのでしょうか。例えば、他の交通手段との役割分担を踏まえて本数を減らす、運行エリアを調整するなどの協議を行う予定があるのかについてお聞かせください。

○事務局：チョイソコの本格運行を10月としている理由として、10月にあい愛バスのダイヤ改正の方を予定をしています。チョイソコの運行時間である日中の時間帯で、あい愛バスの利用者が少ない路線は、チョイソコに変えていくことを想定しています。

○松本委員（名城大学）：アンケート結果で「チョイソコがなかった場合の移動手段」についてタクシーやあい愛バスなどと回答されていますが、これらの利用者が一方的にチョイソコへ移行したわけではないと認識しております。行きはチョイソコ、帰りはタクシーやバスを利用するなど、複数の交通手段を組み合わせられて利用されているケースが多いと考えられます。既存の交通手段の利用が減少したのではなく、新たな需要が生まれている側面があると考えられます。これまで出かけていない方や送迎されていた方の負担が軽減された点は、大きな効果であると感じております。

今後のスケジュールについては、本格運行まで一定期間空くことから、可能であれば前倒しの運行や実証運行の延長などについても検討の余地があるのではないかと考えております。

○事務局：本格運行の前倒しについて、ダイヤの見直し等があるため、完全な形とはならない可能性はありますが、運行形態や運賃についても協議を行い、本格運行に近い形で実施していきたいと考えております。

○松本委員（名城大学）：4条で開始するのに時間がかかるのであれば、これまでと同じ21条で再開し、10月から4条に切り替えるという方法もあると思います。生活への効果が明らかになっていないからその実証のために再度実証実験やりたいという理由であれば、21条でも認められるかもしれません。岐阜運輸支局とも相談して、検討いただければと思います。

(5) 閉会

○事務局：これを持ちまして、本日の地域公共交通活性化協議会を終わらせていただきます。本日はありがとうございました。

以上